

多賀城市震災復興計画 概要版

～支えあい 笑顔あふれる未来を目指して つながろう！多賀城～

1 策定趣旨

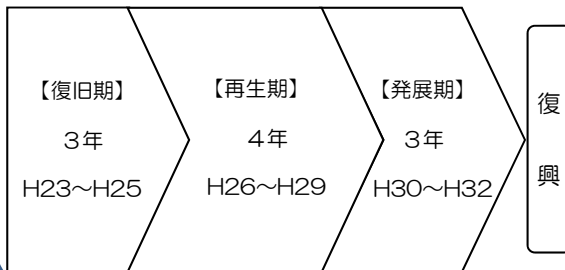
市民、企業などの知恵と力を結集し、復興に向けた将来像を共有し、ともに歩んでいくため、復興の羅針盤として策定するものです。

2 復興理念

- ① 復旧そして復興へ
- ② 安全・安心・笑顔をキーワードに復興を
- ③ 「市民が主役」と「支えあい・学びあい・育ちあい」を基本に復興を
- ④ これまでの多賀城を支えてきた産業の活力・元気再生
- ⑤ 先人から受け継いだ悠久の歴史「史都 多賀城」を後世に

3 復興期間

計画期間：10年間 目標年度：平成32年度



4 重点課題

生活再建と産業再興

居住環境、生活環境が悪化し、雇用・仕事が失われていることを踏まえ、早期の市民生活再建と、産業の再興を重点課題とします。

災害に対応した安全安心の確保

想定を超える大津波を完全に防ぐことが難しいという現実を踏まえ、百数十年に1度襲来する津波には「鎧（ハード）」で守るを、数百年から千年に1度襲来する津波には「逃げる（ソフト）」を前提に、災害に応じた安全・安心の確保のため、「減災」の取組を幾重にも進めることを重点課題とします。

震災経験の伝承とまちの魅力度向上

「逃げる」が基本を徹底し、今回の経験や知恵を風化さないため、過去の歴史も含めて、後世に伝承すること、また、「史都 多賀城」として独自性ある復興を進めていくことを重点課題とします。

5 復興ビジョン

生活再建と産業再興

- 誰もが安心して住み続けられる、「絆」・「つながり」・「コミュニケーション」・「温もり」のあるまち
- 新しい価値観が生まれ、新しい形の仕事・雇用が創造されるまち

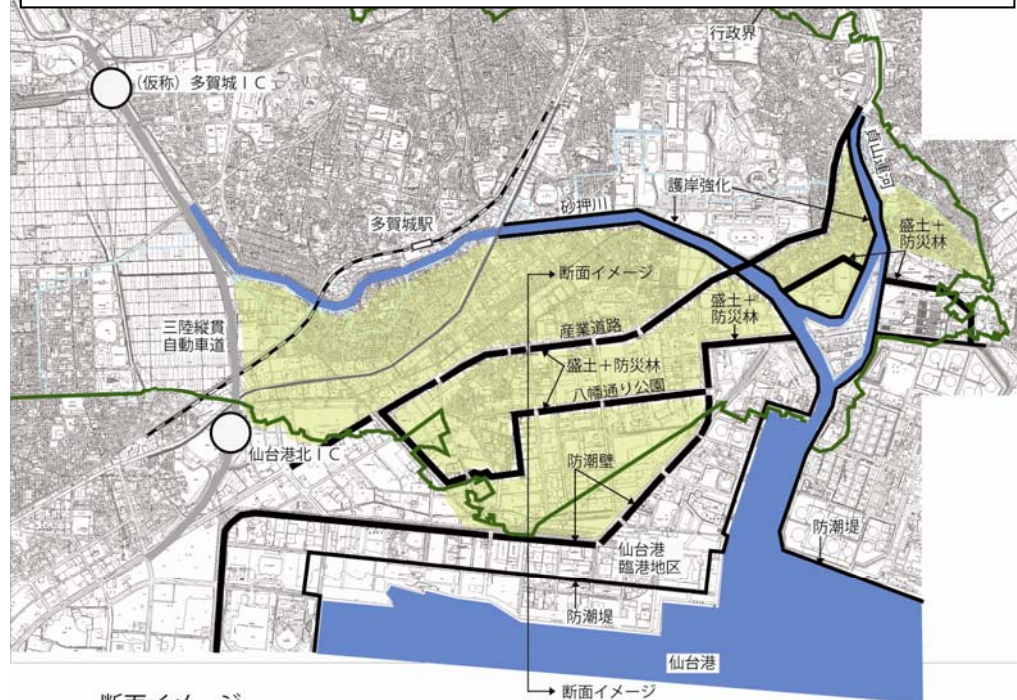
災害に対応した安全安心の確保

- 百数十年規模の災害には「命と財産」が、数百年、そして、千年規模の災害には「命」が守られるまち
- 東日本大震災を踏まえた自助、共助、公助が実践されるまち

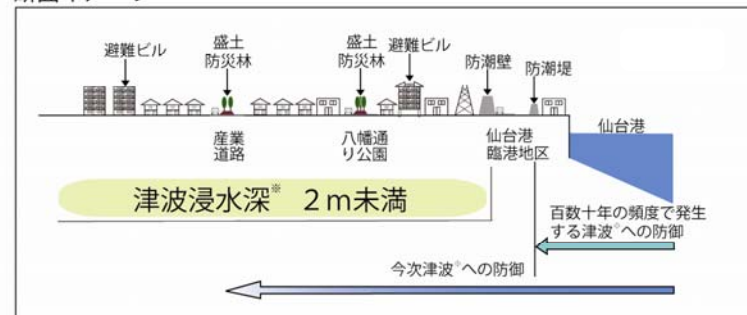
震災経験の伝承とまちの魅力度向上

- 災害に対する知恵、考え方を後世に伝承するまち
- 復興に向けた市民・企業の想いが一つになり、市民にも企業にも選ばれる魅力と資質を備えるまち
- 「-」を「+」にするという逆転の発想で、防災の知恵を集積し、世界に発信するまち

【多重防御と津波浸水シミュレーション結果】



断面イメージ



◆土地利用方針◆

本市の復興に向けた土地利用の方針として、被災者の居住意向や企業の再建意向と本市の立地環境を踏まえ、原則、現地での再建を基本とします。
国土交通省が行った被災現況調査結果によると、津波の浸水深が2mを超えると、建物の流出や全壊の割合が大幅に増加し、被害の程度が大きくなるとともに、死亡率が高くなると報告されています。
この現況調査結果を踏まえ、今後、様々な津波対策を講じることにより、東日本大震災と同規模の津波が襲来した場合の本市における浸水深は、市内の居住可能地域の全域で2m以下になります。
こうしたことから、本市の居住地における復興に向けた土地利用方針として、原則、現地再建を基本とすることとしました。

※今次津波…東日本大震災に伴う大津波と同クラスの津波をいいます。
※百数十年の頻度で発生する津波…明治三陸地震（1896年）や昭和三陸地震（1933年）に伴う津波と、チリ地震津波（1960年）クラスの津波をいいます。

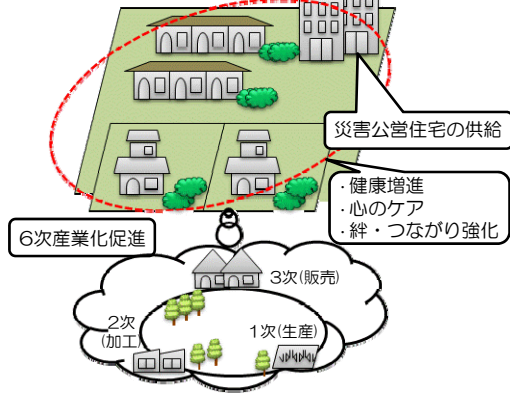
多賀城市震災復興計画に掲げる施策ポイント

①くらしの確保としごとの創出

ねらい

単に住まいを確保することに留まらず、人と人とのつながりや、地域同士のつながりを強化することを基本として、居住地の確保と居住環境の向上、健康増進、雇用機会の確保、生活環境の向上を目指します。

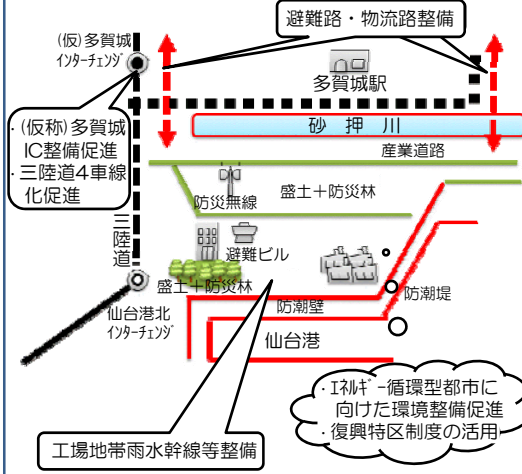
現地での居住再建促進



②既存産業再興促進と立地支援強化

ねらい

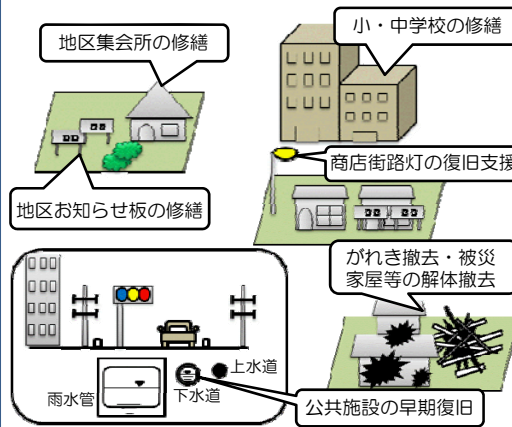
市内に立地している企業の早期再建・再興と、工場地帯の魅力向上による立地企業の増加を目指します。



③早期復旧の実現

ねらい

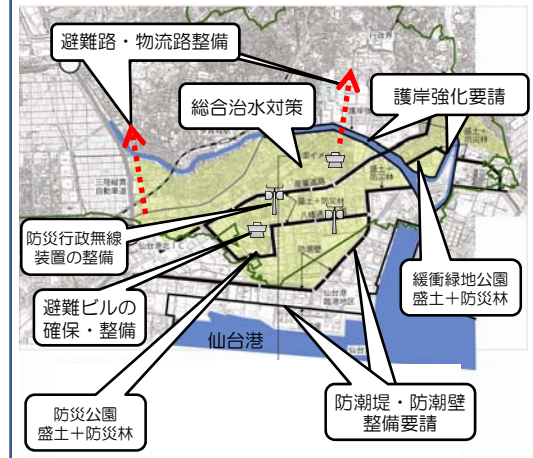
学校や公民館、道路、下水道などの公共施設や、多くの利用に供される生活関連施設などの復旧に最優先に取り組み、東日本大震災以前のような安定した市民生活を早期に取り戻すことを目指します。



④減災対策の充実強化

ねらい

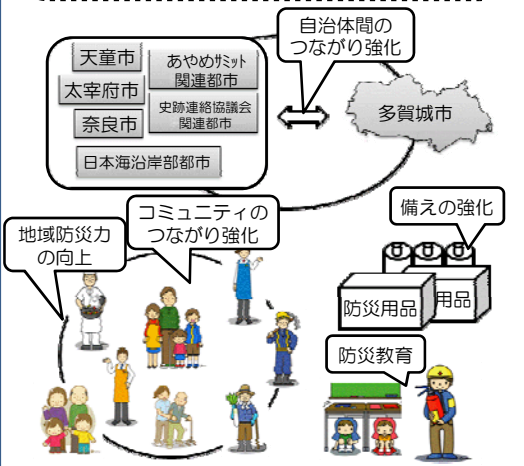
災害に対する防御策を幾重にも講じることで、命と財産が、災害の規模に応じて最大限守られることを目指します。



⑤防災意識の向上

ねらい

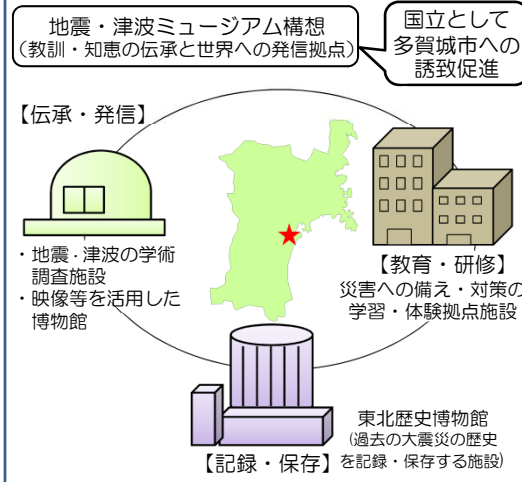
数百年から千年の頻度で発生する津波に対して、設備・施設などの構造物による完全防御の困難さを認識した上で、「逃げる」を基本とした防災意識の醸成・向上を目指します。



⑥震災経験の伝承と世界への発信

ねらい

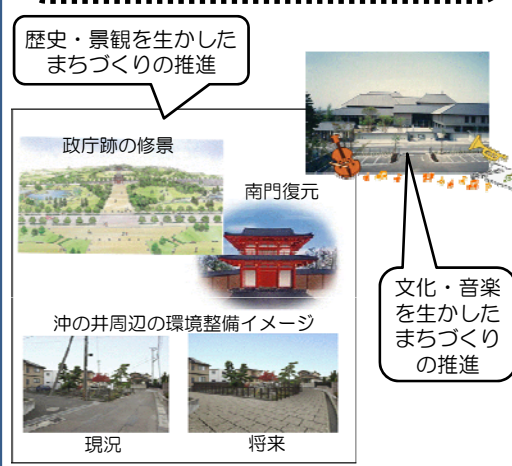
東日本大震災の経験を後世にしっかりと伝承し、世界に発信することを通して、東日本大震災を風化させないことを目指します。



⑦歴史・景観・文化を生かしたまちづくり

ねらい

市民、企業などが「希望」を持ちながら、多賀城らしさである「歴史」や「景観」、「文化」を生かすという意識が高まることを目指します。



⑧復興シンボルとしての史都・市心の整備

ねらい

東日本大震災からの復興のシンボルとして、多賀城駅を中心とする中心市街地の活性化を目指します。

